

## 設 立 趣 旨 書

思い起こせば、幕末明治維新期、藩意識が国家意識へと変革された後、二十世紀後半、我々は、国家意識から地球意識への変革を求めて、一九八三年七月、日本国佐賀市に地球市民の会を設立、早十八年の歳月が流れました。

この間、私たちは先人たちの労苦に支えられながら、官民一体「地球上に多くの民族と文化が存在し、その各々が独自の価値を有することをすべての人々が認め合う運動」を全国各地で展開し、「取り分け、日本人にとっては、国際性を涵養し、日本を外国に知ってもらう」ため、「かちがらす計画」「小さな地球計画」「地球ユースサミット」「アジア太平洋協力会議」などを続けて参りました。そして、世界各地の方々の献身的な努力のおかげで、今日では、当会なしに、日本の国際交流、国際協力の歴史は語れないほどに大きく成長しました。

さて、幾多の異文化交流、協力、教育の現場で、中でも、第一〇回総会記念シンポジウム「人間の持つべき文明」（平成四年）において、私たちは、五つの地球的課題の解決が急務であることを知り、身体中に緊張感が走りました。すなわち、心の荒廃、食糧不足・人口爆発、天然資源の枯渇、地球環境の急激な悪化、世界戦争の危機です。

残念ながら、これら地球的課題に対する認識は、日本国内において高いとは言い難く、歴史、伝統、文化、教育、語学、武道、地域社会、家族など、普段の日常生活の中から自分自身の足元を見直し、生き方を確立するための意識改革、地球維新運動に取り組んで参る必要性を感じてきました。

そして、新千年紀。地球市民の会では、特定非営利活動法人地球市民の会として新たな出発を記します。これまで地球市民の会が蓄積してきた智慧をより効果的に社会還元し、貢献すべく、行政、企業との緊密なる提携協力の下、地球維新運動をより強固にし、新しい社会を構築して参ります。

我々が目指すものは、全人類の全人的な人間の成長であります。地球的課題と共に心身の荒廃を抱え、混迷する世界情勢の中、地球市民の会は、法人化と共に、日本の蘇生、世界の新生のために先頭に立ち、志と品格を養い、笑顔と元気を元としてすべての人々の心を安んじ、世界の平和と安寧を確立するために、積極的な役割を果たして行くことをここに決意いたします。

平成 13年 11月 6日

特定非営利活動法人 地球市民の会  
代表者 古賀 武夫